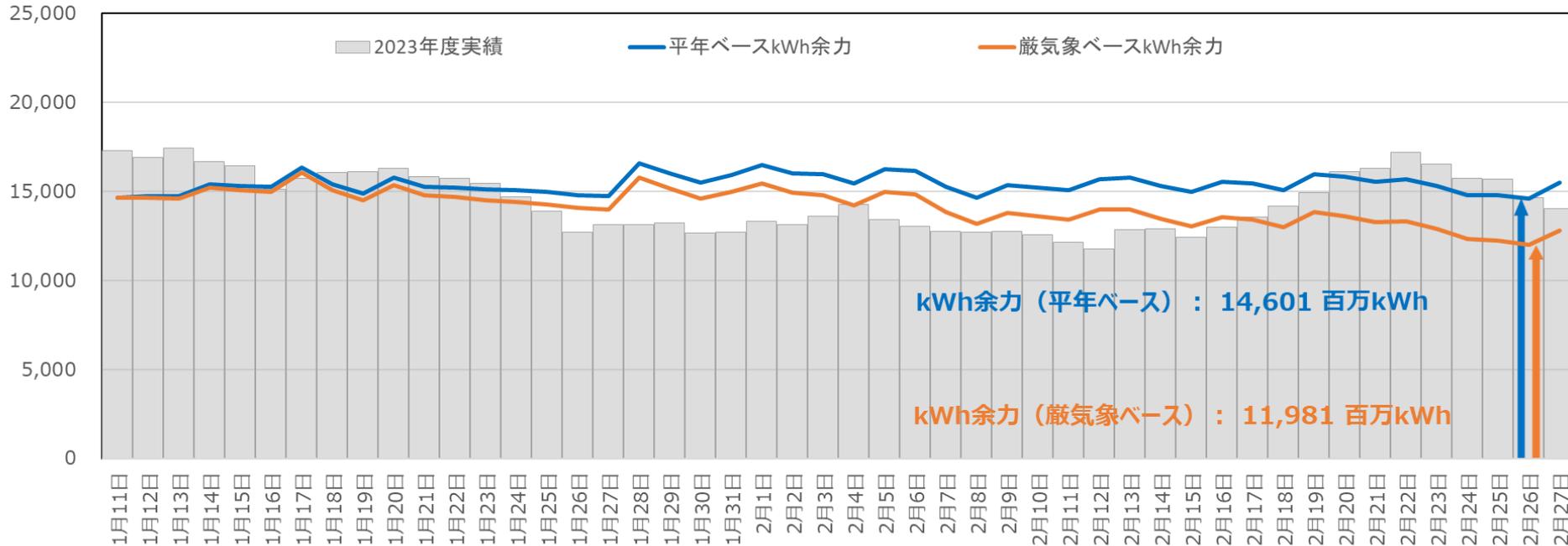


# kWhモニタリング（対象期間:1/11~2/27）の結果

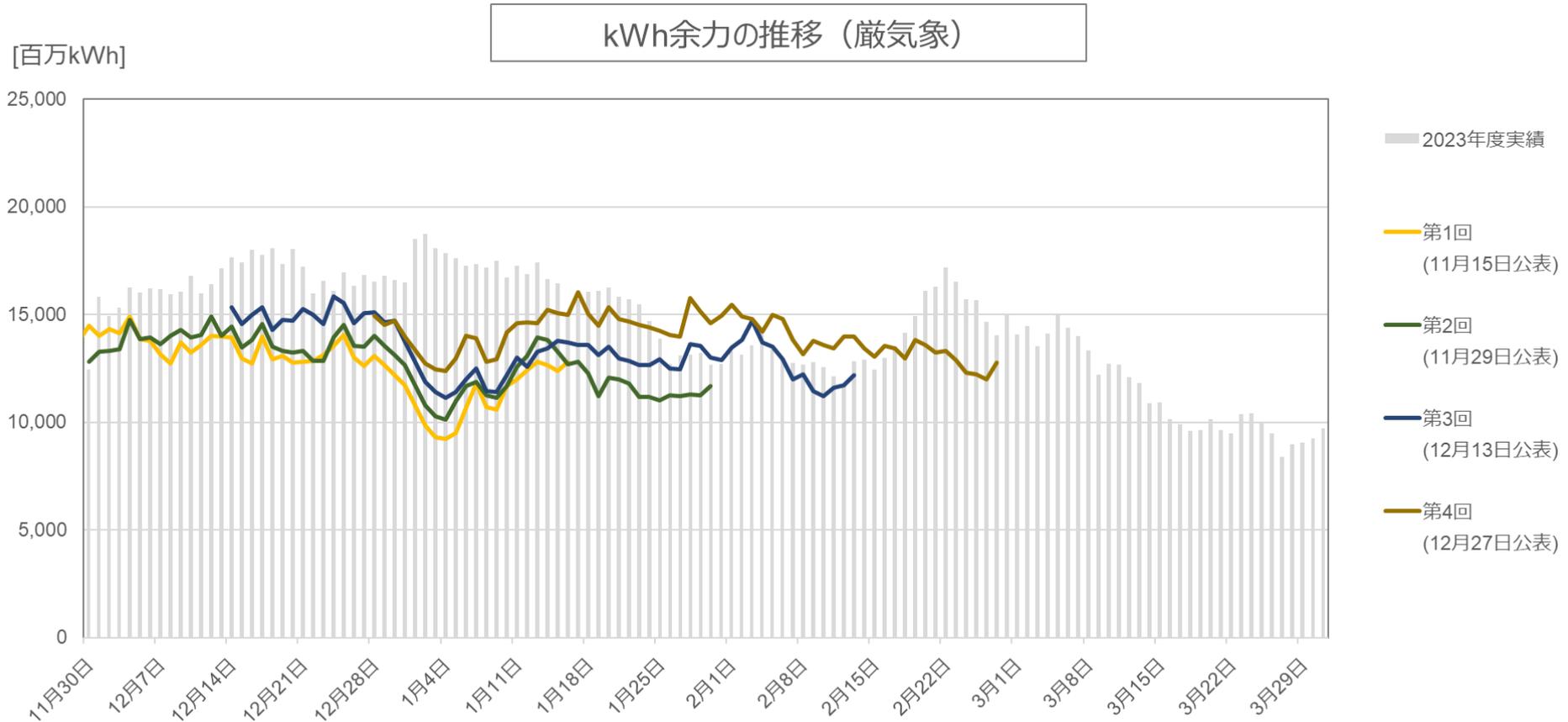
- 今後、平年並で需要が推移すると、kWh余力は2月26日に最小となる見込み。その値は **14,601百万kWh** であり、これは、対象期間の平均電力消費量の**約6日分**に相当。
- 厳気象ベースで需要が推移すると、kWh余力は、2月26日に**11,981百万kWh**となる見込み。これは、対象期間の平均電力消費量の**約5日分**に相当。
- 現時点で燃料在庫の観点からひっ迫の恐れはないが、需要の増加や、原発・石炭発電等のベースロード電源の計画外停止によって状況が変化する可能性があり、今後も動向を注視していく。

[百万kWh]



# kWhモニタリングの結果（これまでの結果との比較）

- 前回（第3回）のkWh余力（厳気象ベース）の推移と比較すると、気象予報を踏まえた直近2週間の需要想定が、厳気象ベースの需要想定を下回ったこと等の影響で、1月上旬の余力が増加。1月中旬以降は概ね同じ傾向。



注：上記kWh余力の推移のうち、始めの2週間は気象予報を基にした需要を用いて算定したものであり、厳気象を想定した推移ではない